

令和5年度 第1回宇和島市地域公共交通活性化協議会

議 事 要 旨

日時 令和5年5月26日（金） 14時00分～15時00分

場所 宇和島市役所 801会議室

出席 （委員） 玉田委員、宮本委員、浅野委員、武田委員、船田委員、藤井委員、
森藤委員、本田委員、田中委員、高瀬委員、二宮委員、一色委員、
菊池委員、松岡委員代理人、弓削委員、窪委員、山口委員（順不同、敬称略）
（オブザーバー）愛媛県南予地方局地域産業振興部地域政策課 須山課長
（事務局）宇和島市企画課：木原、末廣、牧野、古田

1 開会

2 開会あいさつ

3 （1）協議事項

議案第1号 令和6年地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
（地域公共交通確保維持改善事業費補助金）

・事務局より令和6年（令和5年10月1日～令和6年9月30日）の計画内容について説明。

・質疑応答

（委員） 大河内線の利用者数が大きく落ち込んでいるが、なにか理由はあるか。

（事務局） 運行委託業者によると、定期的に利用されていた方の施設入所等により、大きく落ち込んだとのこと。

（委員） 増える見込みはないか。

（事務局） 今後は利用促進等により、定期的な利用者確保していく必要があると考えている。

（委員） 利用が伸びない原因の分析や地域の利用者の声を聞くなどして、利用者が今後増えるような取り組みをしていただきたい。
また、三間地区で鉄道と接続する路線との連携をする等、利用者にとってより利便性が高まるよう工夫できれば、少しずつ利用者は増えてくると思う。例えば、徳島バスのように、2者で協同するなどして経費削減にもつながればいいと思う。

(委員) 今ほどお話があった件については、徳島バスと共同経営という形で、J R切符で高速バスに、高速バス切符でJ Rに乗ることができ、定期券でも同様の取り扱いをする実証実験を日本初の取り組みとして行い、特に徳島バスでは利用人数がかなり増え、利便性が向上した。

以前は、私鉄と競合しないようにと言われていたが、現在は二次交通の観点等から、協働して利用者の利便性が向上するよう徳島バスと同様の取り組みができるところを模索している状況。もし、予土線で実現できれば、利便性が向上するよう考えていきたい。

現在、宇和島自動車株式会社とは協定を結んでおり、何らかの理由でJ Rが運行できないときは、J Rの定期券でバスに乗ることができるようになっており、来月にはそのような事態に備えて訓練を実施する予定。

(委員) 今ほど言われたように、災害時や運休時の代替交通として仕組みはあるものの、運用について利用者になかなか周知できる機会がないことや発生時の誘導の仕方などを整理する必要があるため、6月に訓練を行ってまずは従業員がスムーズに動けるようにしていきたいと考えている。

(委員) これまでは乗り継ぎの面などで意見交換をしてきたことはあったと思うが、今ほどのお話のように一歩進んだ形で実現できるようどんどん発信していただき、地域の方に浸透していけばいいと思う。

(委員) 自家用有償旅客運送事業の料金設定や乗り方について、説明をお願いしたい。

(事務局) 料金について、別当地区は、大人 300 円、小人 150 円、障がい者及びその介護人は半額、吉田・三間・津島地区は、大人 200 円、小人 100 円、障がい者及びその介護人は半額としてそれぞれ設定している。

乗り方について、定時定路線型は通常の路線バスと同じような利用方法であり、デマンド型は利用者自ら予約を行い、指定の停留所で乗降していただくこととなっている。

(委員) 定時定路線型は、途中で乗り込めるか。

(事務局) 津島地区のコミュニティバスは、フリー乗降を設けている区間もある。

(委員) 大河内線のデマンド便について、目標値が大幅に下がっているが、今後目標値を上回れない事態が続く場合、路線廃止の検討も視野に入れる必要が出てくるのか。

(事務局) 路線廃止等については、今後の利用状況や地元との協議内容を踏まえて、慎重に検討していく必要があると考えている。

- ・質疑応答後、拍手による採決を行い、賛成多数により承認。

議案第2号 宇和島市地域公共交通網形成計画に係る事業報告及び宇和島市地域公共交通計画の策定について

- ・事務局より各事業の実施状況及び今後の計画策定スケジュールについて説明。

- ・質疑応答

(委員) 文字の読めない外国人観光客に配慮し、路線の色分けをお願いしていたと記憶しているが、完了しているか。

(事務局) 当市では、宇和島自動車株式会社の運行する路線やコミュニティバスの路線を色分けして掲載した公共交通マップを作成しており、市民の皆様にもご覧いただけるようHP等でも公開している。

(委員) 例えば、バス停に立っていて目的のバスが来たかどうかはわかるようになっているのか。

(委員) 事務局の内容に補足すると、当初は当社のバスに色分けできればという話であったと記憶している。現在、系統ごとのナンバリングを費用面等を考慮しながら今年度中に実施できる方向で検討を進めている。

●例：(松山行き) M10 など

今後、各バス停に設置できれば案内等もしやすくなることを期待している。

(委員) 現計画(宇和島市地域公共交通網形成計画)のうち、現在実施内容検討中の事業については、次の計画(地域公共交通計画)に引き続き盛り込まれるものとなるか。

また、現計画は令和6年7月まで計画期間があり、次の計画は年度内に策定予定としているが、計画の対象期間をどのように取り扱うのか確認したい。

(事務局) 現計画で盛り込んでいる事業については、次の計画にも引き継ぐことで検討している。

また、現計画は令和6年7月まで計画期間があるが、今年度中に次の計画を策定することで、現計画をブラッシュアップした新たな計画として、4月1日から実施していきたいと考えている。

(委員) 現計画では取り組みが必要な事業を掲げており、たとえば免許返納などは最適な手段を見出せていないため、実施内容検討中となっているが、今後も取り組みが必要なものとして次の計画に引き継ぐことを考えている。

- ・質疑応答後、拍手による採決を行い、賛成多数により承認。

議案第3号 戸島地区の地域モビリティ実証実験について

- ・事務局より事業の概要について説明。

- ・質疑応答

(委員) この事業の予算はどの程度を想定しているのか。

(事務局) 当初予算としては、738,000円を計上している。

(委員) 今回運転者となっている6名の方は、全員普通免許を所持しており、講習も受講されているとのことであるが、運行に係る安全面に関して、十分ご留意いただければと思う。

(事務局) 先日の講師による講習の中で、車両を安全に管理して運行できるようお話をしていただいたところであり、安全面に関しては十分留意いただけるものと認識している。

(委員) 地域モビリティの実証実験を行うきっかけとなったのは、地元からの要望によるものなのか。また、今後地域に事業が定着した際、1台のみでの運行が困難となった場合に、車両を増やすことも検討しているのか。

(事務局) きっかけは、戸島地区の方から市に要望があったもので、これまでは近所の方や親せきが目的地への送迎を行っていたものと思われる。また、島内の主要となるルートは1～2km程度で、それほど長くないが、高齢者が移動するには少し苦慮する距離であり、今後、需要が高まれば新しい車両を用意することも検討するが、反対に、利用が少ないと実証実験で終了となる可能性もある。

(委員) きっかけが、地元の要望かどうかで利用者の意識は大きく変わってくると考えており、今回の件については、地元からの要望をもとに取り組むものであるため、ぜひ周知に努めてより多くの人を利用し、今後も継続していくことを期待する。

(委員) 周知には十分努めていきたいと考えている。また、行政がすべてをカバーすることは難しいため、協働のまちづくりとして、地域の方の力を借りながら地元とマッチする取り組みを進めていきたいと思う。

今回は実証実験であり、結果をしっかりと分析して今後を検討していきたい。

- ・質疑応答後、拍手による採決を行い、賛成多数により承認。

(2) 報告事項

- ・コミュニティバスの土日運行実証実験について

(委員) 夏休み期間を含めた土日運行ということだが、吉田町における小学校の統廃合(令和7年4月)に伴い、当社の運行しないルートはスクールバスが補完すると認識しているが、スクールバスが走っていない時間帯にその児童たちはコミュニティバスも利用することができるか。

(事務局) 利用することができる。

- ・その他

質問・意見なし

4 閉会